日本基督教団 新横浜教会 月報

鶏けいめい鳴

2011年2月13日（第44号）

イエスの言葉

『沖に漕ぎ出して網を降ろし
漁をしなさい』

聖書（ルカ福音書５章４節）

牧師　河合裕志

イエスが朝、ゲネサレト（ガリラヤ）湖畔に立っていると群衆が神の言葉を聞こうとして押し寄せて来た。このままではもみくちゃにされてしまう。見ると二そうの舟が岸に寄せてあり漁師たちが網を洗っている。そこでイエスはそのうちの一そうであるシモン（ペトロ）の持ち舟に乗せてもらい岸から少し漕ぎ出させた。そして腰を下ろして舟から岸辺にいる群衆に向かい教え始める。少し漕ぎ出させたのはこのためだった。イエスもなかなか機転がきく。

話し終った時、イエスはシモンに『沖に漕ぎ出して網を降ろし漁をしなさい』と言った。これは大変に無茶な命令。なぜってシモンは言っている。『先生、わたしたちは夜通し苦労しましたが何もとれませんでした』。漁に関してはシモンの方がずっとベテラン。悪いけどイエスはずぶの素人。そんな俺達が夜通し漁火をたいて漁をした。網を打った。けどただの一匹もとれなかった。あちらこちらと打ったけれどとれるのは棒切れ位。もう本当に苦労した。疲労こんぱい。まずシモンはありのまま率直に告げた。でもそれで終わらなかった。『しかしお言葉ですから網を降ろしてみましょう』と続ける。ここがシモンのエライとこ。よくもこんな具合に言えたもの。やはりイエスに一目置いていた。ここは従ってみよう、何か考えがあるのだろう。

そしてギーコギーコ沖に漕ぎ出し、エイヤーと力をふりしぼって網を投げ打った時大変な事が起った。とても引き上げることが出来ない、今にも網が破れそうな大漁。もう一そうの仲間に声をかける。双方の舟にザーと魚を入れる重みで舟が沈みそうに。この時シモンは何を思ったのかいきなりイエスの足もとにひれ伏して『主よ、わたしから離れてください。わたしは罪深い者なのです』と言った。イエスに主、神を直感。するとイエスは『恐れることはない。今から後あなたは人間をとる漁師になる』と告げた。こうしてシモンはイエスの弟子になってしまう。

この大漁の話しはその後多くの人々を励まして来た筈。苦労したけどだめだったと言う人にもう一度やってみよう、トライという思いを与えた。収穫なし、望みなし、この立ちはだかる壁、もう絶望。だが待てよ、本当にそうか。まだ可能性はあるのでは？　この広い海、まだ私の投網を待っている魚が一匹位いるのでは？　とに角もう一度やってみよう。そんな思いを与えてくれる。この話しは。

案内

主日礼拝	：毎日曜日午前１０時１５分
主日夕拝	：毎日曜日午後　６時
子どもの教会	：毎日曜日午前　９時
中高青年会	：毎日曜日礼拝後
おしゃべり会	：毎木曜日午前１０時
聖書を学ぶ集い	：第４水曜日午前１０時